

音楽表現技術の学び (Ⅲ)

—「音楽 (声楽)」受講生の現状と課題—

久世 安俊

Learn of musical expression skills (Ⅲ)

—Music (vocal) current situation and problems of students—

Yasutoshi Kuse

Abstract

I would like to conduct a questionnaire survey and to grasp the current situation and to extract future tasks so as to explore what the students learned in "music (vocal music)" and how to grasp the musical expressions in the childcare field.

Key words: Musical expression skills, Singing, Children's song, Operetta,

はじめに

筆者が担当する授業「音楽 (声楽)」において学生たちが何を学び、保育現場における音楽表現をどのように捉えているのかを探るべく、本学研究紀要第 46 号 (2016) からアンケート調査を続けてきている。引き続き、平成 29 年度入学の受講生へのアンケートを実施し、現状の把握と今後の課題を抽出したいと考える。

科目概要

- ・ **発声と歌唱**…テキストから季節や行事などテーマを決め、毎回 4~5 曲を斉唱。
- ・ **楽典**…読譜に当たっての基礎的な理論を学ぶ。
- ・ **コーリューブングエン独唱**…ア・カペラで音名 (ド・レ・ミ…) で歌う課題。各々、練習して暗譜で歌えるようになったら筆者のもとへ独唱に来る。
- ・ **二人一組での独唱発表**…課題曲を各々ピアノ伴奏と独唱とを担当。クラスのメンバーの前で演奏する。
- ・ **弾き歌い**…実習曲 (課題曲)、季節の曲、お気に入りの曲と選曲し、弾き歌いを行う。
- ・ **音楽劇創り**…音楽劇のグループ発表を行う。全発表をビデオで撮り、次の時間に鑑賞しディスカッションを行う。
- ・ **合唱**…総合発表会における音楽会で演奏するの学年合唱の練習を行う。

アンケート

・調査項目

前期授業での実技に関する取り組みについて 5 項目。

1. 歌唱（歌うこと）は好きですか？
2. 子どもの歌の斉唱について
3. コーリユーブンゲンについて
4. 二人一組による歌唱とピアノ発表について、また感想（自由記述）
5. 音楽（声楽）での取り組みで学んだことを教えてください。また、保育・教育現場でそのように活かしたいと考えますか？

後期授業での音楽劇の創作活動に関する取り組みについて 3 項目。

1. 成果は発揮できましたか？
2. 音楽劇の取り組みについて。満足ですか、不満足ですか。
3. 今回の取り組みで学んだことを教えてください。

・調査対象

平成 29 年度前期を受講した保育科 1 年生 56 名を対象に無記名で調査を行った。
(欠席者は含まれない)

平成 29 年度後期を受講した保育科 1 年生 57 名を対象に行った。

・調査実施日

前期の授業時間内：平成 29 年 9 月 25 日 3 限目と 5 限目で実施した。

後期の授業時間内：発表当日の感想／平成 29 年 11 月 27 日 3 限目と 5 限目に実施。

：発表動画の鑑賞後／平成 29 年 12 月 4 日 3 限目と 5 限目に実施。

前期の活動

結果と考察

1. 歌唱（歌うこと）は好きですか？

大好き	好き	嫌い	大嫌い
18 人：32%	33 人：59%	4 人：7%	1 人：2%

(%：小数点第 2 位を四捨五入)

1-1. 〈大好き・好き〉と答えた理由（要約）

- ・ストレス解消。ストレス発散。
- ・心がスッキリする。
- ・笑顔になれる。
- ・楽しい気分になれる。
- ・テンションが上がる。
- ・上手下手関係なく楽しめる。
- ・楽しく感じたり、悲しく感じたり、歌うことによって表現するのが好き。

：一体感を感じる。　：子どもの歌は楽しい。
 ：楽しいけれど、一人で歌うのは苦手。　：みんなで協力して歌うから仲が深まる。
 ：みんなで歌うのが楽しい。

1-2. 〈嫌い・大嫌い〉と答えた理由（要約）

・音痴だから。2・1
 ・恥ずかしいから。あまり上手くないから。
 ・音が周り合わない。声が低いので外れているのが分かる。

91%の学生が歌うことが好きと回答している。「楽しい」「ストレス解消になる」といった理由が大半を占めている。前年度の学生よりは6%の増という結果である。その分、嫌いであるという学生の割合は少なくなっているが、「音痴だから」「恥ずかしいから」という理由は変わらない。注目点として、好きな理由に「楽しいけれど、一人で歌うのは苦手」「みんなで歌うのが楽しい」が挙がった。ひとりでみんなの前で歌う、といった注目を浴びる活動としては抵抗があるということだろう。保育現場で子どもたちと一緒に歌うという活動では問題ないということであろうか。検討が必要であろう。

2. 子どもの歌の斉唱について

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
33人（3人） 59%	21人（2人） 38%	2人：（0人） 3%	0人 0%

（ ）は歌唱が嫌い・大嫌いな学生

2-1. 〈満足・どちらかといえば満足〉と答えた理由（要約）

	理由
満足	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに戻った気分で楽しめる。 ・身振り、手振り付きで歌ったのが楽しかった。 ・*いろんな歌が歌えて楽しかった。たくさんの歌を知れた。 ・子どもたちにいろんな歌を教えてあげられる。 ・子どもの歌は歌いやすく楽しい。 ・：<u>*みんなで一緒に歌えて楽しい。</u> ：知った曲が多いから。 ：現場でも役に立ちそう。 ：子どもの歌だから楽しい。 *満足です。

	*懐かしい歌もあり楽しかった。
どちらかと いえば 満足	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>教科書以外の曲がもう少しあると嬉しかった。</u> : <u>斉唱は好き。自分がやる立場を考えると不安。</u> : <u>みんなで歌うことが好きだから。</u> : 幅広く覚えられる。 <p>*楽しくなるし、保育園時代を思い出す。 ☆いろいろ歌ったから。</p>

2-2. 〈どちらかといえば不満足・不満足〉と答えた理由（要約）

	理由
どちらかと いえば 不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分が上手く歌えず悔しいから。</u> : <u>高い声が出にくいから。</u>

「・」歌唱が大好き「:」歌うことが好き「*」歌うことが嫌い「☆」歌うことが大嫌い

「いろんな歌が歌えて楽しい」「たくさん歌を知れた」という理由が大半を占めている。歌のレパートリーを増やすことを目的としている面から、また、歌が嫌いという学生も喜んでくれていることから、とても有効であると考えられる。〈どちらかといえば満足〉の回答に「教科書以外の曲がもう少しあると嬉しかった」が挙げられた。お勧めの歌として教科書以外からの選曲も提示しているが、分量を増やす必要があるのかもしれない。また「斉唱は好き。自分がやる立場を考えると不安。」という回答が目をつけた。みんなで歌うことで羞恥心が和らぐという一方、「自分がやる立場」＝自身がひとりで子どもたちの前に立って歌い示す、つまり“独唱”への不安と取ることが出来る。このことは大きな課題の一つだと捉えている。

一方、前年度には回答がなかった〈どちらかといえば不満足〉に、歌唱が好きな学生から挙げられたことも注目したい。理由として「上手く歌えない」「高い声が出にくい」とテクニック面での理由を挙げてくれている。このことに関しては、コーリューブングンの活用とリンクして考える必要があるだろう。

3. コーリューブングンについて

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
16人 (2人) 28%	24人 (1人) 43%	15人 ((14人)) 27%	1人 2%

() は歌唱が嫌い・(()) は歌唱が大好き・好きな学生

3-1 〈満足・どちらかといえば満足〉と答えた理由（要約）

	理由
満足	<ul style="list-style-type: none"> ・先生と楽しくやれた。全部クリアし達成感が得られた。 ・1対1で緊張したけど、すべてクリアできたから。 ・音程をつかむことができたから。 ・<u>楽譜を理解して歌う</u>ことで、子どもたちに分かりやすく伝える勉強ができました。 ・最初は嫌だったが、歌っていくうちに楽しく思えた。 ・自分の音感が知れる。緊張はあるが楽しくできた。 ・恥ずかしかったが自信がついた。 <p>: 間違った音程を教えてもらうことで、感覚が良くなった気がするから。</p> <p>: 練習して合格できた時はとても嬉しい。</p> <p>: 発声の練習にもなった。</p> <p>*すべてクリアできたから。</p> <p>*歌っていくうちに段々楽しくなってきたから。</p>
どちらかといえば満足	<ul style="list-style-type: none"> ・難しかったが頑張った。 ・<u>音符を読むのがスムーズになった。</u> ・あと一つ、合格できなかった。 ・全部クリアできなかったのが心残り。でも先生に「いい声している」と褒められたのが嬉しかったです。 ・少しずつでも出来るようになって楽しい。 <p>: リズムを間違い、何回もやり直しがあつたが、最後までできた。</p> <p>: 最初は難しかったけど、クリアできたし、覚えていくとつい歌っていた。はまった。</p> <p>: 少し難しかった。</p> <p>: 楽しかった。</p> <p>: 自分のペースでできたから。</p> <p>: 楽譜が理解できた。</p> <p>*先生が自分が納得するまで、丁寧に指導してくれたから。</p>

3-2. 〈どちらかといえば不満足・不満足〉と答えた理由（要約）

	理由
どちらかといえば不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に練習できず、半端なものになってしまった。 ・もう少し時間があればチャレンジできたのに、残念。 ・覚えられない。 <p>: 2つしか合格していないから。 : 半分しかできなかった。</p>

	: 難しかった。 : <u>リズムが難しいものばかり</u> で歌いにくかった。 : 自分にはできない。 * 音程が取れなかった。
不満足	☆課題が多い。歌うの無理です。

「・」歌唱が大好き 「:」 歌うことが好き 「*」 歌うことが嫌い 「☆」 歌うことが大嫌い

〈満足・どちらかといえば満足〉と回答した割合が 71%で、前年度の 57%からすると、大きな前進だといってよいだろう。コーリューブングンを扱うことで“読譜力”“音程感覚”を身に付けさせることを目的としているが、期待する文言が挙げてあり喜ばしく感じる。歌唱が嫌いな学生も「納得できるまで、丁寧に指導してくれた」と回答してくれた。

また、度胸をつける意味で一人で歌いに来るという形態を採っているが、前項での「みんなで歌う」という概念がここではあまり触れられていない。

一方、歌唱が好きな学生のうち 14 人が〈どちらかというの不満足・不満足〉と回答しており、練習不足や課題を全てクリアできなかったとする不満が伺える。「音程が取れない」という理由については、取れるようにするための課題であること、歌いに来やすい環境作りが必要ということであろう。「難しいものばかり」(難易度)、「課題が多い」(分量)については検討する。

4. 二人一組による歌唱とピアノ発表について

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
18 人 32%	24 人 (2 人) 43%	13 人 ((10 人)) 23%	1 人 ((1 人)) 2%

() は歌唱が嫌いな学生、(()) は歌唱が大好き・好きな学生

4-1. 〈満足・どちらかといえば満足〉と答えた理由 (要約)

	理由
満足	<ul style="list-style-type: none"> ・二人でしっかり練習して、息が合ってくる楽しさ。 ・とても緊張したけど楽しかった。 ・人前で弾いて歌って、いい緊張感を体験できたから。 ・二人組ということで、少し恥ずかしさがなくなった。 ・相手に合わせてピアノを弾くことの大切さがわかった。 : 相手がいることでより頑張ることが出来た。 : 相手に合わせた伴奏の大変さを感じた。 : お互いに教えあうことが良かった。協力し、助け合えた。

どちらかと いえば 満足	<ul style="list-style-type: none"> ・発表までの時間も十分で、練習も各々できた。 ・相手が合わせてくれない時があったから。 ・間違えないように、迷惑かけないようにという気持ちがあった。 : 緊張したが楽しかった。 : 少しピアノを間違えた。声もあまり出ていない気がしたから。 : 達成感。 : 間違えてしまい、相手に申し訳なかった。 : 相手を思いすぎるあまり、緊張して弾けなかった。 : 発表はイマイチだったけど練習は楽しかった。 : 止まったりしたが、最後までいけた。 *ピアノはまあまあできた。歌は声が小さく、ハキハキできなかった。 ☆いい感じでできました。
--------------------	---

4-2. 〈どちらかといえば不満足・不満足〉と答えた理由（要約）

	理由
どちらかと いえば 不満足	<ul style="list-style-type: none"> ・努力不足です。伴奏が上手くできなかった。 ・歌もピアノも実力不足が否めない。 : 本番に発揮できなかった。 : ピアノを間違えてしまい、相手に迷惑をかけてしまった。 : 二人で時間が取れなかった。練習不足。 *ピアノが上手く弾けず、相手に迷惑をかけてしまった。 *手の震えが止まらない。上手く弾けなかった。
不満足	<ul style="list-style-type: none"> : 伴奏が難しすぎる。ペアになるのはもっと無理。一人でやりたい。

「・」歌唱が大好き 「:」 歌うことが好き 「*」 歌うことが嫌い 「☆」 歌うことが大嫌い

4-3. 発表してみたの感想、反省点など（自由記述）

	理由
満足	<ul style="list-style-type: none"> ・練習では弾けていたのに、緊張で上手くいかず悔しいです。 ・パートナーと大声で歌うことができ良かったです。 ・まだまだ練習が必要だと感じました。自信につながるはずです。 ・嫌でしたが、いい機会でした。 ・ピアノはもう少し相手のことを考えて弾けば良かったです。 ・何度も練習したので、とても達成感があります。またやりたいです。 : 難しくあきらめそうだったが、相手のことを考え頑張ることができた。 : 達成感があった。 : 自分では大きな声で歌っていたと思ったが、相手のピアノには聞こえ

	<p><u>ていなかったようで反省した。</u></p> <p>:今のうちに慣れていきたい。</p> <p>:想像以上に緊張した。練習が必要だと思いました。</p>
<p>どちらかと いえば 満足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと練習して完璧に弾きたいと思った。 ・良い経験でした。相手との絆も深まった。 <p>:ピアノが失敗した。でも楽しかった。</p> <p>:歌う方が弾くことよりも余裕があった。</p> <p>:納得いくまで練習しました。成果が出せたと思うので良かったです。</p> <p>:緊張がやばかった。慣れたいです。</p> <p>:二人で練習して、楽しかったし、協力できて良かったです。</p> <p>*ペアの人に配慮しながらピアノが出来たら良かったと思った。</p> <p>☆緊張したけど楽しかったです。</p>
<p>どちらかと いえば 不満足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・弾き歌いの「弾く」方が力不足。 ・ピアノのミスタッチ、歌唱の集中力のなさを感じました。集中力を身に付けたい。 ・もう少し練習時間を持つべきだった。 <p>:もっと練習して完璧にしておけばよかった。</p> <p>:緊張で声が出なかったり、弾けなかったりしたので克服したい。</p> <p>:恥ずかしさをなくし、堂々と頑張りたいです。</p> <p>:自分の力量が分かった。</p> <p>*みんなの前で初めて発表して、とても緊張しました。とても勇気のあることでしたが、パートナーと協力できてとても良かったです。</p> <p>*緊張する癖を直さないといけないこと。</p> <p>*恥ずかしさで頭が真っ白になる。</p>
不満足	<p>:ピアノが片手でしか弾けなかった。いい出来とは言えない。</p>

75%の学生が、概ね「緊張したが楽しめた」や、二人一組ということで協同でき「達成感があった」という満足を得てくれている。歌唱が嫌いな学生（2人）も同様に楽しめたと回答してくれている。不満足の理由としては「ピアノが弾けなかった」「練習不足であった」「間違えて、相手に迷惑をかけた」という前年度同様ピアノ演奏に関する理由がほとんどであった。例年であるが、ピアノ演奏については課題山積だと感じている。初の回答として、歌唱が好きな学生が、〈不満足〉で「ペアになるのはもっと無理。一人でやりたい。」と回答している。難しい課題である。

発表してみての感想では、「自分では大きな声で歌えていたと思ったが、相手のピアノには聞こえていなかったようで反省した。」と興味深い回答が挙がった。オペレッタの指導でもよく口にするのだが、“表現は伝わらないと意味がない”のである。この実体験は非常に

価値あることと考える。

5. 音楽（声楽）での取り組みで学んだことを教えてください。また、保育・教育現場でどのように活かしたいと考えますか？

<p>・子どもがどのような歌を好むか、楽しむか分かった。</p> <p>・今後も経験を積んで、子どもの前で堂々と弾けるようになりたいです。</p> <p>・楽譜を読むスピードが上がった。楽譜を読む大切さ。</p> <p>・曲の雰囲気合わせた演奏が大切だと感じました。</p> <p>・子どもたちが「歌うことは楽しい」と思えるような音楽をしたい。</p> <p>・指導の難しさ。</p> <p>・音楽はとても楽しくて、授業が毎回楽しみです。この楽しさを子どもたちに伝えていきたい。</p> <p>・歌をのせられるようなピアノ伴奏。</p> <p>: 音楽の楽しさを改めて感じました。</p> <p>: 声の出し方。</p> <p>: たくさんの歌を知ることができた。</p> <p>: 人前に立つことに慣れたい。</p> <p>: 〈カエルの合唱〉の輪唱、〈大きな栗の木の下で〉を振付きで歌ったのが楽しかった。</p> <p>: 先生のように上手にピアノを弾けるようになり、弾き歌いが出来るようになりたい。</p> <p>: 準備の大切さ。</p> <p>* <u>先生はいつも堂々と歌っていて、それを見て、私も歌おうという気持ちになれました。恥ずかしがらずにやれば、子どもたちも楽しんでくれるのかなと思いました。</u></p> <p>* たくさんの歌を知ることが出来ました。練習続けていきます。</p> <p>* 子どもたちの前では笑顔。</p> <p>* 自分なりに、どうにか形にすること。</p> <p>☆ いろんな歌を知ることが出来ました。現場でも紹介していきたい。</p>

音楽劇の創作活動

グループ企画内容

A-1	7人グループ
テーマ	さるかに合戦
ねらい	○友情の大切さ。 ○昔話に親しむ。
物語・構成	昔話「さるかに合戦」の物語
登場人物	サル カニ くり ハチ 白 ナレーター ピアノ
使用曲	〈にんげんっていいな〉（ピアノ伴奏）

特記	*台本作成
----	-------

A-2	7人グループ
テーマ	秋の遠足
ねらい	○遠足に行き、秋にはどんなものがあるかを歌と一緒に知る。
物語・構成	遠足に行き、いつもの幼稚園とは違う1日を過ごす。そして流れに沿って歌を混ぜる。
登場人物	先生 子ども ABCD ピアノ (2人)
使用曲	〈おはよう〉 〈バスごっこ〉 〈おべんとう〉 〈おべんとう箱〉 〈さんぽ〉 〈どんぐりころころ〉 〈まつぼっくり〉 〈おかえりのうた〉 (ピアノ伴奏)

A-3	8人グループ
テーマ	赤ずきん
ねらい	○知らない人にはついていけないことを知ってもらう。
物語・構成	「赤ずきんちゃん」の物語
登場人物	赤ずきん 母 おばあさん オオカミ 猟師 お巡りさん ピアノ
使用曲	〈森のくまさん〉 〈おまわりさん〉 〈ビーマーチ〉
特記	*台本作成 *ピアノ演奏のみ

A-4	7人グループ
テーマ	公園に行こう！！
ねらい	○雨の日の過ごし方と仲直りの仕方を知る。
物語・構成	今日は雨。チャーリー幼稚園の皆は室内遊びをしています。やがて雨が上がり皆は公園に行くことにしました。が、公園遊びをしたくない一人の女の子が友達と言ひ合ひのケンカを始めてしまいました。先生の一言で二人は仲直りをして、みんなで楽しく遊びました。
登場人物	園児 ABCDE 先生 ピアノ (3人)
使用曲	〈じゅげむ〉 〈虹の向こうに〉 〈虹〉 〈公園へ行きましょう〉 〈ありがとうの花〉
特記	*当日、一人欠席

B-1	8人グループ
テーマ	サンタさんなぜここに！？～大きな一つの勘違い～

ねらい	○音楽に合わせて、表現することを楽しむ。 ○季節の行事に触れ、季節感を味わう。
物語・構成	赤鼻のトナカイがいじめられているところをサンタが助け、仲直りさせる。サンタはトナカイたちと一緒にプレゼントを渡しに行くが、家に入り子どもたちに言われて初めて今日がイヴだと気づく。せっかくなので子どもたちと踊り、明日来ると約束して帰る。次の日ぶじプレゼントを届ける。子どもたちはとても喜ぶ。
登場人物	サンタクロース 赤鼻のトナカイ 青鼻のトナカイ (2人) 子ども (2人) ナレーション・ピアノ
使用曲	〈赤鼻のトナカイ〉 〈あわてんぼうのサンタクロース〉
特記	*当日、一人欠席

B-2	7人グループ
テーマ	わんぱく小学校
ねらい	○みんなで協力することの難しさを知る。
物語・構成	1年生の入学式と6年生の卒業式の物語。ドキドキな小学校の入学式。月日は流れ6年生。卒業式前に6年1組の生徒(5人)はタイムカプセルを埋めることにした。大事なものや将来の夢をタイムカプセルに入れ、6年1組の生徒は卒業式を迎える。
登場人物	生徒:A(食いしん坊役) B(優等生役) C(問題児役) D(大人しい役) D(元気の良い役) 教師 ピアノ
使用曲	〈1年生になったら〉 〈思い出のアルバム〉
特記	*歌唱部とピアノのみのところ

B-3	7人グループ
テーマ	桃太郎
ねらい	○日本の昔話について知る。 ○仲間意識を育てる。
物語・構成	「ももたろう」の物語
登場人物	桃太郎 じい・鬼 ばあ・鬼 犬 キジ サル ピアノ
使用曲	〈おべんとう〉 〈ももたろう〉 〈鬼のパンツ〉 〈小さな世界〉

B-4	6人グループ
テーマ	山の音楽会
ねらい	○多くの童謡に触れる。 ○劇あそびの雰囲気を楽しむ。
物語・構成	山の中で動物たちが出会い、音楽会を成功させる物語。
登場人物	ことり　こりす　たぬき　うさぎ　こねこ ナレーション・ピアノ
使用曲	〈きのこ〉　〈おかえりのうた〉　〈どんぐりころころ〉　〈こたりのうた〉 〈大きな栗の木の下で〉　〈おててをあらいましょう〉　〈夕焼小焼〉 〈かもつ列車〉　〈線路は続くよどこまでも〉　〈山の音楽家〉
特記	*台本作成

8グループ中、3グループ（A-1、A-3、B-3）が既存のお話を題材とした。子どもの歌を3曲以上は使用することという条件を提示したにもかかわらず、A-3「赤ずきん」ではピアノ演奏のみで歌唱することがなかった。他のグループは工夫を凝らしたドラマを作り上げていた。A-2は、幼稚園の遠足をモチーフに、多くの歌を組み合わせた構成にしていた。A-4は雨の日の幼稚園の出来事、B-1は行事の代表格クリスマス、B-2は〈思い出のアルバム〉、B-4は〈山の音楽家〉と子どもの歌の名曲を軸に物語が展開する。A-1、A-3、B-4グループは台本の作成も行った。

結果と考察

1. 成果は発揮できましたか？

	発揮できた	発揮できなかった	両方
A-1	4人	3人	0人
A-2	3人	2人	2人
A-3	3人	5人	0人
A-4	0人	6人	0人
B-1	5人	1人	1人
B-2	2人	3人	2人
B-3	0人	7人	0人
B-4	3人	3人	0人
	20人 (36%)	30人 (55%)	5人 (9%)

55人*A-4とB-1は発表当日1人ずつ欠席。

〈発揮できた〉〈両方〉で回答が多いグループ（A-1、A-2、B-1、B-2）は「自信をもって演じられた」「しっかり練習ができた」「流れよくできた」「役になりきれた」という理由で

ある。〈発揮できなかった〉の回答者は大半が「練習不足」とプロセスの反省と「声が小さかった」「台詞を忘れた・間違えた」、ピアノ担当者は「弾き間違えた」「途中で止まった」技術的な理由が占めている。A-4とB-7はグループ全員が〈発揮できなかった〉の回答となっているがタイプが異なる。A-4はとても魅力的な選曲で期待していたが、発表当日の欠席があったり、打ち合わせばかりで実践練習がほぼ取れなかったと反省している。B-3は衣裳や小道具の視覚的な効果はとてもよく、『桃太郎』そのままの物語であったためか流れは良かったのだが、練習不足は否めなかったようである。B-1も発表当日一人欠席者が居たのだが、それを感じさせないくらいのドラマの展開、台詞のやり取りであった。感想でも「劇を楽しめた」「練習を重ねた」と挙がっている。

2. 音楽劇の取り組みについて。満足ですか、不満足ですか。

	満足	どちらかといえば 満足	どちらかといえば 不満足	不満足
A-1	2人	4人	1人	0人
A-2	0人	5人	0人	0人
A-3	1人	4人	3人	0人
A-4	0人	1人	3人	2人
B-1	4人	3人	1人	0人
B-2	3人	4人	0人	0人
B-3	2人	4人	1人	0人
B-4	1人	4人	0人	0人
	13人 (25%)	29人 (54%)	9人 (17%)	2人 (4%)

53人*鑑賞当日A-2が2人、A-4が1人、B-4が1人欠席。

活動としては概ね満足しているようであるが、やはり発表が芳しくないグループは不満要素も多いようである。A-1メンバーから「あるグループでは、一人に任せっきりのところがあり残念に思った。」と取り組む姿勢に意見が挙がった。前年度で挙げられた「グループの組み方」、真摯に取り組みたいのだが周囲の雰囲気邪魔をしてしまうという環境も大きく左右しているのだろう。表現テクニックや指導法に展開をする以前の問題点として再度検討が必要であろう。

3. 今回の取り組みで学んだことを教えてください。

A-1	: 自分自身は声を出しているつもりでも、相手には聞こえ方が違う。 *何より準備が大切。
A-2	: 協力して作り上げることの楽しさ。自分たちでは手応えを感じたところも、反応がさまざまであること。

	<p>: 協力して作り上げることの難しさと面白さ。仲間からのアイデアなどとても参考になった。</p> <p>: 練習時間の作り方。</p> <p>: 達成感。</p>
A-3	<p>・ 協力することの大切さ。練習の重要性。</p> <p>: 小道具の使い方。魅力。</p> <p>* 作り上げることの大変さ、時間の使い方。</p> <p>* 与えられた役に責任を持つ。</p>
A-4	<p>* 自信をもって発表できるだけの練習が大切。</p> <p>☆ 発表までの準備・計画が大切。欠席者の穴埋めなど、臨機応変な行動も必要。</p>
B-1	<p>・ 恥ずかしさを捨てないと、どうにもならない。</p> <p>・ 歌で雰囲気が変わる。</p> <p>・ 情報の共有。チームワークの大切さ。</p> <p>: 協力することの大切さ。</p> <p>* 伝えることの難しさ。表情、動作、台詞の一体感が表現。</p>
B-2	<p>・ 自分の役割を果たすこと。</p> <p>・ 物語、脚本家は凄い。</p> <p>: 自分たちで考えていくことの難しさ、大切さ。そこでの達成感。</p> <p>: 「ねらい」の重要性。</p> <p>: 協力して作り上げることの難しさ。</p> <p>: 協力することの大切さ。</p>
B-3	<p>・ 園児たちに取り組ませる場合、どのように伝えていくかなど、考えるいい機会でした。</p> <p>: 客観的なものの見方。</p> <p>: 練習が必要。</p> <p>: 観る側の視線。</p> <p>* 小道具の効果。</p>
B-4	<p>・ 計画性。</p> <p>: 時間の使い方、計画的に。</p> <p>: 考えていることが、相手にはなかなか伝わっていない。</p> <p>: 他のグループの発表から、多くのアイデアを得たり、改善点も分かった。</p> <p>: 下準備と練習の大切さ。</p>

「・」 満足 「:」 どちらか満足 「*」 どちらか不満足 「☆」 不満足

おわりにー今後の展望

平成 29 年度の「音楽（声楽）」において受講生たちの学びと意識を見ていった。前期の音楽表現活動（歌唱やピアノ）では、学生自身が大なり小なり真摯に表現しようとする姿が伺える授業が行えているようである。前期項目 5 においても、学生たちが持つ保育者像の実現に向け、足りない部分を真摯に受け止めた改善点が伺える。また歌唱を嫌う学生からの「先生はいつも堂々と歌っていて、それを見て、私も歌おうという気持ちになりました。」という回答に身の引き締まる思いである。指導者としてこのスタイルは継続していく所存である。後期の音楽劇創作では、その各々の持った才能がグループ活動で開花し、創意工夫に富んだ劇発表が出来ているとあってよいだろう。これまでの紀要でも常々述べているが、技能や指導法以前に羞恥心や達成感というメンタル面が非常に重要であり、この面の安定が授業内容の展開を大きく左右するものであると改めて実感した。特にグループワークについては細心の配慮が必要だと言える。

今回の対象学生が本年度（平成 30 年度）の総合発表会でのオペレッタ発表を進めている。後期の「音楽劇」の学びがどの程度活かされ、どれほどのクオリティーを持った作品を作り上げるか非常に期待している。

[参考文献]

久世安俊（2016）音楽表現技術の学び（Ⅰ）ー音楽（声楽）受講生の現状と課題ー『近畿大学九州短期大学研究紀要』第 46 号 89-97 頁

久世安俊（2017）音楽表現技術の学び（Ⅱ）ー音楽劇の創作活動ー『近畿大学九州短期大学研究紀要』第 47 号 205-212 頁